〔別記１〕

【第２回公立大学設立準備委員会での意見（抜粋）】

・県外出身者が国立大学並みで、県内出身者はそれより少し安く、諏訪地域出身者はさらに安く、という考え方については良い。

・県外出身者をより高くしてしまうと入学の道を狭めてしまい、大学の質や志願倍率を下げてしまう可能性がある。県外出身者を国立大学並みとすることを前提とした方が良い。

・県内出身者が多いに越したことはないが、県外からも来ていただき、この地に定着していただくという目的もあるので、県外出身者の入学料を国立大学標準額より上げてしまうのは望ましくない。

・入学料について３段階にするというのは、地域に根差したというのを目指していく、そして財政的に諏訪地域と長野県が支出しているので、あまり違和感がない。

・全国から魅力のある学生を集めていった方が、大学の魅力も上がっていくように思う。
地元の学生を優遇するということには少し違和感がある。

〔別記２〕

【第 12 回諏訪東京理科大学公立化等検討協議会での意見（抜粋）】

・諏訪地域や長野県内出身者は入学料が安いと、県外出身者は差別されていると捉えられてしまう。

・グローバル化の中で、様々なところから人材を集め偏差値を上げ教育レベルを上げていこうとしているので、入口段階で差を設けることが良いことなのか悩ましい。

・諏訪地域は産業が活性化してきたが、諏訪地域以外の人材がこの地に来て活躍することによって今日があるのではないか。入学料に差をつけることには賛成できない。

・諏訪地域をさらに活性化させるときに、より優秀な学生に地域内外問わず入学してもらい、より強い大学にしていくことが最終目的である。

・入学料に差を設けていない公立大学と比較すると、法人の収入に影響が出てくる。

・新公立大学が、将来の諏訪地域の活性化や産業界への支援などで力を発揮していくという使命を持っている中で、入学金に差をつけることによって、全国あるいは世界中の志願者から見て、大学が小さく見えてしまう。

・全国の国公立大学と肩を並べる教育研究機関として存在していくために、公平に、広く学生に集まっていただくこと、この地域においてもっと広範囲の人々との交流があること、あるいは国際性があることが重要であり、大学の価値である。入学料に差をつけるということには賛成できない。

・地元地域の方々が、諏訪地域から大学に行く学生を応援したいということであれば、諏訪地域出身者の入学枠を設けるとか、奨学金や返還不要の給付型のメセナ、あるいは企業のメセナを充実させるといった、何か別の方法を考えていければどうか。

・どの学生に対しても同じチャンスを同じ条件で与えたいので、入学料の差というのは無い方がいいのではないか。優秀な学生には、授業料免除のような方法もできるのではないか。

・本当に良い人材を集め、色々なところで活躍できる人材を諏訪で育てるということが大切であり、入学料に差をつけることは、学生にとってあまり嬉しくないことではないか。